

# 院内報同仁



正確な診断  
適切な治療

2018年3月 第236号

創立 100 周年

良質な対応

医療法人 八重瀬会 同仁病院

〒901-2133 浦添市城間1-37-12 Tel 098-876-2212 Fax098-876-4209

同仁病院 Facebook

検索



2017年秋叙勲 山内英樹院長 受章！



[東京医科歯科大学医科同窓会会報No.271より]

## 「繋がりからの叙勲」

医)八重瀬会 同仁病院  
理事長・院長 山内 英樹

此の度の旭日双光章受章にあたり、平成29年11月、厚生労働省にて勲記・勲章の伝達を受け、引き続き皇居へ参内、天皇陛下拝謁の栄を賜りました。それまで、勲章など関心もなく、勿論身近に感じた事も全くなかったので、正直“ビックリ”でした。

小生は、昭和40年入学。学園紛争全盛時で、何度かのストライキを経験する中、空手部(現・剣道部)に入部し部活にのめり込む毎日でしたが、良き友人・級友そして先輩後輩に恵まれ、市川、御茶ノ水と楽しい学生生活を送る事が出来ました。卒業後は、第一外科に入局。約12年在局し、いくつかの外勤病院出張、東大医科研への研修等、多くの先生方にご指導を頂きました。その間、一般外科を基本に消化器外科、消化器内視鏡、術後代謝、そして腎臓移植等、臨床を中心に指導頂きそれなりに対応できたのではないかと自負しております。術後代謝分野の臨床研究で学位を取得する事も出来ました。

昭和58年、沖縄県に戻り、民間病院外科部長の傍ら琉球大学第二外科非常勤講師を勤め、昭和60年、現在の同仁病院設立、平成4年医療法人八重瀬会として法人認可を受けました。平成6年沖縄県浦添市医師会執行部に入り、同16年より8年間会長を務めました。副会長～会長時代、行政等とタイアップしながらいくつかのユニークな事業立ち上げや、全日本病院協会支部、そして同仁病院地域活動が今回評価されたのでしょうか。

私事になりますが、同仁病院は平成30年、創立100年を迎えます。発祥の地は生まれ故郷で高校まで過ごした宮古島。母方の祖父・上里忠勝が大正7年宮古同仁医院を開設、終戦直後、両親が引き継ぎ、2代目院長・山内朝秀、副院長・山内秀子(歯科医)、そして3代目私の代で浦添市に移り154床の病院となりました。大正、戦前、戦中、戦後と、離島県沖縄でも、更に離島の宮古島。医療資源に乏しく、器材、薬剤不足の中、祖父、両親が、苦しく厳しい環境で地域医療に貢献した継続で現在があります。幸い、息子・裕樹も本学を卒業し整形外科でお世話になり、現在当院の院長代理として頑張ってくれています(5年前、彼も学位を取得、父、私と3代続けて医学博士となりました)。今回の叙勲は、創立以来の同仁病院3代の繋がり、更に今後への連綿の代表、としての叙勲と受けとめております。勿論、多くの支えや応援がありました。家内、家族が支えてくれました、当法人の優秀なスタッフが頑張ってくれ共に今日を築き上げてきました。親戚、友人、知人達から力を頂きました。更には、沖縄県医師会、浦添市医師会、全日本病院協会、そして本学諸先生方のご指導、ご協力の賜物だと、多くの方々に感謝しつつ、ありがたく受章させて頂きました。

当法人も12施設を擁する法人に成長しました。幸い、小生、頭も体もまだ何とか使えそうです。これを機に新たな気持ちで、医学の進歩に遅れる事なく、医療制度の大きな波に溺れる事なく、法人運営、そして地域医療活動に少しでも貢献できるよう精進していく所存です。

本学のこの数年間の発展、進歩はまさに目を瞠るものがあり、卒業生としてとても誇らしく思います。沖縄県支部会員も50名超となり、各分野・各方面で盛んに活躍、頼もしい限りです。当院でも小生を含め4名の同窓生が活躍してくれています。最後に、これからの本学のますますの発展、充実を祈念すると共に、今後ともご指導、ご協力の程、宜しくお願い致します。

## [浦添市医師会報 2018.新春号より]

### ★表 彰★

# 平成29年度秋の叙勲 旭日双光章授章

医療法人八重瀬会 同仁病院 院長 山内 英樹 先生

本会元会長 山内英樹先生(同仁病院 院長)が沖縄県の保健医療活動の向上に貢献されたご功績により、平成29年度秋の叙勲(保健衛生功労)で旭日双光章を受章されました。

山内英樹先生は、昭和46年東京医科歯科大学医学部をご卒業し、同大学の第一外科、おもと会大浜第一病院外科に勤務され、昭和60年に浦添市城間に同仁病院を開設。医療の提供にとどまらず、訪問看護ステーションや訪問介護、通所介護事業所、グループホーム、地域包括支援センター等を開設し、在宅医療、介護から急性期医療までを包括的に提供して来られました。

この間、浦添市医師会理事、同副会長、同会長を合計9期18年務められ、全日本病院協会沖縄県支部理事、同常任理事を歴任し、地域医療の向上と発展に多大なる貢献をされています。

本会の執行部として、「病・診連携」に行政を加えた「病・診・行連携」の確立、「地域づくりへの積極的関わり」について大きくご尽力されました。中でも、市民からの医療に関する相談業務をはじめ、医療ニーズに応じた医療情報の提供や関係機関との連携を図る事を目的として浦添市との協働で誕生した「メディカル・インフォメーションセンター(以下MIセンター)」は、当時副会長であった山内英樹先生は行政と膝詰めの議論を交わすなど、中心的な役割を果たされました。「MIセンター」はその先駆的使命を平成27年4月より「浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー(浦添市医師会内に設置)」に引き継ぐことになりましたが、その礎を築いた山内英樹先生の功績は極めて大きいものです。

これら「病・診・行連携」のもと、平成20年度からは、浦添市において厚生労働省、経済産業省、総務省の三省による「健康情報活用基盤実証事業(三省連携事業)」が3年間に亘り実施され、この事業においても主導的役割を果たしました。この事業は平成23年度の経済産業省の「医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出実証事業(地域見守り事業)」、平成24年度の厚生労働省の「在宅医療連携拠点事業」へとその成果が引き継がれ、浦添市における行政と医師会の連携を盤石なものとししました。

今日、地域包括ケアシステムの構築に際し、地区医師会の役割が強調されていますが、それは浦添市医師会を牽引しつつ進めてきた山内英樹先生の活動そのものであり、本会の発展に寄与したその功績は計り知れません。

この度の山内英樹先生のご受章は、浦添市医師会会員のみならず浦添市民にとりましても誇りとするものであり、慶賀に堪えません。改めて深い敬意と感謝の意を表します。誠におめでとうございます。



# 【医局インフォメーション】

## 『誰も悪くない。(ダンバー数と人間関係の法則)』

総合診療部  
知花 朝美



いろんな人々と出会う人生、長くなると、相手の顔と、名前が思いだせない事件が起こる。

医師になりたての頃(個人的には人間関係の数が急速に広がった年代)、東京での事、「中学の同期の金城〇〇ですが、沖縄から同期の▽△さんが、上京するので、集まりの連絡ですが、わたしのこと憶えていますか？」と電話があった。▽△さんは、よく知っているが、金城〇〇さん(同じクラスになったことがない)を思い出せない。そのことをやんわりと告げると、集まりの内容を告げることなく電話を切られてしまった。もう一つの事件は、まだ若いころ、「先生、有難うございました。手術してもらった〇〇です。大きな手術でしたよね」と患者さんが、沖縄の病院に訪ねてきた。手術をした患者さんらしいが、まったく思い出せない。東京から旅行に来たので、懐かしくて寄ったという。その患者さんは、少し話をした後、怪訝な顔をして、不満そうに別れていった。(後日、サマリー・コピーを探して確認したが…確かに十数年前に東京の病院で手術をした患者さんだった。順調にいった患者さんほど、憶えていない)この二つの事件とも、私が悪いのか!!と、落ち込んだ。

外科医は「手術痕を見れば、患者さんを思い出す」「てこずった患者さんほど憶えている」と言っ、言い訳をする。しかし、その言い訳とは別に、その後、凡人の私が悪いわけではないと、考えるようになった。人間は、記憶の再生のない人の名前や顔は、忘れるのだ(もちろん、優れた記憶力を持つ人間は多いが)。私の様な凡人の記憶は、関係性の深さや、継続性あるいは反復性によるものだ。引用になるが…

人間関係には、「5-15-50-150-500の法則」があるという。「150(ダンバー数)」と、「500」という数が、人間関係の付き合いの限度の数なのだという。ダンバー数は、英国の文化人類学者のロビン・ダンバー教授が猿の研究から、「深い付き合いの輪は150人が限度」という学説の「150」という数字である、また、「5-15-50-150-500の法則」とは、【5は、家族、親友など、精神的支えや困った時の助けを求められることができる相手の平均的人数。15というのは、その人が亡くなれば大きな悲しみを経験する人たちの数。50というのは、比較的頻繁にコミュニケーションを取る人の数。150というのは、「ダンバー数」という人間の頭脳の大きさで決まる一人一人の名前を憶えていて、はっきり認識できる人の数。500というのは、弱いつながり(Week ties)と呼ばれる、会ったことはあるけど、それほど親しくない、名前ぐらいは憶えている人の数】ということだそう。

「顔は見たことある」、「名前はきいたことある」というのは、もっと多い数かもしれないが、関係性の記憶の再生をしない限り、新しい人間関係の人々に、弱いつながりの古い人間関係は、顔も、名前も、頭脳から弾かれてしまうことになるようだ。写真、書類、手紙、メール、Face bookなど、手掛かりになる物があれば、そこで、また繋がる。顔と名前ともに思い出すことができる限度が、500名なのだから…大切な人は、一年に一度でもいいから、年賀状などで連絡を取り合う事が必要という事だと思う。

組織においても、500の数から、前記の関係性の人々の数(同期生、親族、知人など私的関係の200名ぐらい??)を大まかに除くと、病院で働く職員の間関係で、最大限のチームとしての組織力を発揮できるのは、300名ぐらいの組織が理想なのだろうか?などと考えるようになった。同仁病院の規模だ。職員が、500名、700名、1000名、と超えていくと、人間が多すぎる。私みたいな凡人には、500以上という数は、頭脳の許容量を超えてしまう(忘れてしまう)。私が悪いわけでもなく、憶えていることを求めてくる知人が悪いわけでもない。誰が悪いわけでもなく、人間の頭脳の限界なのだ。「憶えている」ことは、人間関係の深さや反復性、時間的に近い日々の関係性によるものだ。できるだけ、連絡し、記録し、再見し、思い出すようにしよう。

平成30年3月

# 最小侵襲でひざ・ 股関節の痛みをとる方法!

知ることから始まる  
市民公開講座



山内 裕樹先生 原 憲司先生 福原 大夢先生

講師 医療法人 八重瀬会 同仁病院  
院長代理・  
整形外科部長 山内 裕樹 先生  
湘南鎌倉  
人工股関節センター部長 原 憲司 先生  
理学療法士 福原 大夢 先生

2月25日(日)宮古島にて、市民公開講座を開催しました！  
座長は沖縄県立宮古病院整形外科部長の伊志嶺先生が務められ、初めに山内裕樹院長代理の病院紹介では、ルーツである宮古島より今年100周年を迎える紹介から、股関節の講演へ。原先生は膝関節、リハビリテーション科福原さんは自宅で出来る「ながら体操」を実演。質疑応答では会場から様々な質問があり、充実した講演となりました。

多くの市民の方に参加して頂き感謝申し上げます。今後とも地域に根ざした医療を提供して参ります！



会場 宮古島市文化ホール  
(マティダ市民劇場)

**プログラム**

13:30 ~開会挨拶~

13:40~14:30 山内 裕樹 先生  
「切らないで治す股関節痛、  
切っても筋肉を切らずに治す人工股関節置換術」

14:30~15:20 原 憲司 先生  
「切らないで治す膝痛、  
切っても筋肉を切らずに治す人工膝関節置換術」

15:20~15:30 休憩

15:30~16:20 福原 大夢 先生  
「知って得する股関節、膝関節のながら体操」

16:30~17:00 ~質問コーナー~

講演時には質疑応答時間が含まれています。




## 平成29年度 第4回 八重瀬会研究発表会

平成30年2月20日（火）ティードホール

八重瀬会教育委員会主導のもと、年4回開催されます。各部署から研究の成果を発表し、時には課題も抽出され医療の質向上に日々取り組んでいます。

座長：内科 赤嶺先生

発表者

ゆい南病棟 ○浦崎 麻貴

多種多様に富む経管栄養食業務の改善

HCU ○伊波敏彦

CPRシミュレーション継続学習の取り組み

放射線科 ○森 宣子

単純X線における膝関節立位側面伸展位撮影方法の検討



互助会主催！

## ボウリング大会！！

平成30年2月17日（土）マチナトボウル

今年度も互助会主催によるボウリング大会が行われました。整形外科の比嘉清志郎先生の始球式から始まり、1ゲームのみのぶっつけ勝負で本来の力を出せず悔やむ人や、ラッキーが重なり自己ベスト更新する人など、笑いあり、涙ありの大会となりました！

運営された互助会委員の皆さん、お疲れ様でした！



## 資格取得・研修修了者

公益社団法人 沖縄県看護協会主催「医療安全管理者養成研修 修了証」  
平成30年1月26日(会場:沖縄県)  
○山川 幸子 ○吉浜 佳菜子

沖縄県主催「平成29年度 沖縄県地域肝炎治療コーディネーター養成講座 修了証書」  
平成30年2月1日(会場:沖縄県)  
○新里 秋乃 ○新垣 桃子

検定試験合格者  
東京商工会議所主催「福祉住環境コーディネーター検定試験2級 合格証」  
平成30年1月9日(会場:沖縄県)  
○豊島 悠志 ○上原 椎菜 ○津嘉山 聡

一般社団法人 日本ハンドセラピー学会主催  
「Semmes Weinstein monofilament test(SW-test)講習会 受講証明証」  
平成30年2月18日(会場:東京都)  
○矢野 俊恵 ○大屋 美月

厚生労働省九州厚生局主催  
「平成29年度医療安全に関するワークショップ 受講証書」  
平成30年3月7日(会場:沖縄県)  
○池村 富士夫 ○知花 朝美 ○具志堅 美智子

## 屋富祖公民館 骨密度測定会

平成30年2月15日(金) 屋富祖公民館

屋富祖自治体ご協力のもと、屋富祖公民館にて骨密度測定会を行いました。骨密度測定会の他に保健師による保健指導や理学療法士による「百歳体操」など、参加者の皆さんは熱心に取り組んでおりました。その後、自治体スタッフの方が作った昼食を頂きながら、栄養師による減塩に努めた料理法やメニューについての説明を聞きました。屋富祖自治体の皆さんの元気さと健康意識の高さには大変驚かされました。そして、浦添市自治体の皆様、ご協力頂き誠にありがとうございました。



## 浦添市 まちかど健診

浦添市役所 1階 平成30年3月12日

浦添市役所にて、特定健診を行いました。約40名の方が受診されました。

今回は市役所内での健診でしたが、同仁病院では、特定健診はもちろん人間ドックの受診も可能です。健康診断はご自身の体の状態を知る良いチャンスです！！

ご自身の為にはもちろん！ご家族の為にも、年に1回は、健康診断・人間ドックを受診しましょう！



## 糖尿病予防教室 開催！！

平成30年2月4日（日）ティーンホール

当院では栄養科、リハビリテーション科共同で年4回糖尿病予防教室を行っております。前半はリハビリテーション科による「持久力エクササイズ」と題して運動の大切さと実際に参加者の皆さんと運動し、後半は管理栄養士による正しい栄養摂取について学び、最後は参加者の皆さんへカロリー計算された食事を提供し、皆さん笑顔で解散となりました。

今後も定期的に開催予定となっておりますので、参加希望の方はリハビリテーション科または栄養科までお気軽にお問い合わせ下さい！



## 平成29年度 第2回 こども発達講演会

### ～言葉と発音を育てるかわり方～

浦添市保健相談センター 2階大ホール H30.2.17 (土)

浦添市より依頼を受け、当院言語聴覚士 眞喜屋による発達講演会を行いました。多くのお母さん達や保育関係のお仕事をされている約60名の方が参加しました。日頃なかなか聞けない事や、自宅で出来る発音の練習方法などを共有し、質疑応答では、たくさんの質問もあり時間が足りない程でした。

\* 当院では、日々の診療で培った知識や経験を幅広く知って頂くため、院外活動も行っております。ご要望がありましたら、お気軽に企画室までお問い合わせ下さい。



FMLレキオ (80.6MHz) H30.4.5 (木) ONAIR  
「てーげーどクターK」 17:00～18:00



2018年4月5日OA予定の、てーげーどクターKです。山内院長 2回目のご出演で、学生時代や同仁病院立ち上げ当時の思い出、面白エピソードなど聴きどころ満載です。豊島室長より同仁病院 2017年度 5大ビッグニュース、2018年度 5大ビッグイベントの発表で番組を締めくくりました。また院長からは今後ラジオ番組としてのクオリティーを追求していくようご指示がありましたので、新年度の最大目標にしたいと思います！

### 第190回 同仁病院ゴルフコンペ～美らオーチャードゴルフ倶楽部～ H30.3.28 (水)

- 優勝：長濱
- 2位：山川
- 3位：潮平
- ドラコン
- No. 2 比嘉(清)
- No.11 長濱
- ニアピン
- No. 3 山内
- No. 8 潮平
- No.12 安次嶺
- No.14 安次嶺

